



鈴鹿の風

2014.9

第22号

「気が優しくて力持ち、
それでも心が折れるとき」

院長 小長谷 正明

新任医師のご紹介

新人コメディカル職員のご紹介

放射線科の画像機器をご紹介します

医学トピックス「AEDについて」
平成オタクコラムプロ野球編14

トピックス
BLS研修を行いました

医師より皆さんへ

職員の輪
地域医療連携室だより

付録
看護課だより
「感染管理看護師のご紹介」
「正しい手洗いの方法」

リハビリテーション室での光景

病院理念

- 私たちは、国民に奉仕する立場から、政策医療である筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者様本位で質の高い専門医療を提供します。
- 私たちは、充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。

気が優しくて力持ち、 それでも心が折れるとき

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院長 **小長谷 正明**



この鈴鹿病院は、重症心身障害者や、いわゆる筋ジストロフィーと神経難病など、医療を必要とする障害者の方々が数多く入院されています。慢性疾患のため、入院は長期間に亘り、中には（断続的にしろ）何十年にも及ぶ方もいます。

私は、以前は神経内科医長として、神経筋疾患の患者さんたちの臨床に当たっていました。難しい病気ばかりで、ない知恵をしぼり、専門書や論文に首っきりになって診断や処方を考えました。時には急変や重態化で、深夜に名古屋から鈴鹿までスピード違反を気にしながらも高速道路を飛ばして駆けつけました。（ドア・ツー・ドアの最短時間は18年前の30分で、時効ですネ）

治療が当たってわずかでも症状が改善すると、患者さんによかったねと声をかけ、同時に自分なりの達成感に浸りました。でも、努力の甲斐なく残念な結果に終わると、どこかにミスがなかったらどうかと自分で振り返り、明日のよりよい臨床の糧にと考えました。そして、改めて筋ジスや神経難病という、立ち向かっている病気の手強さを再認識したものです。

また、そのような患者さんのご家族にも心を打たれます。ずっと妻の側についていたいと、何年もほぼ毎日病院に泊まり込んでいた人もいますし、入院中のお子さんの元に通うのが日課のご両親もいます。家での闘病が無理になった老婦人のご主人が泣きながら私の所に来ました。「家内が、自分を見捨てて入院させたと言って、責めるのです」と。また、元気であった筈の連れ合いが、先になくなるという悲劇もありました。

この夏、突然、知らない女性の声の電話がかかり、長い闘病の末に亡くなった方のご家族からでした。いつもは年老いたお父さんが通ってこられたので、消息を聞くと、この春に脳の感染症で入院し、今は寝たきり状態なので、代わりにお礼の挨拶をとのことでした。未だにご挨拶いただけるのは臨床医冥利に尽きると思いながらも、お父さんの病気に心を曇らせました。

私は12年前に病院長になって病棟から離れたましたが、回診の折などに、新しい主治医やナースのお世話を受けながら闘病している以前の患者さん

を診察し、著変がない場合はほっとし、進行していると心を痛めています。近年は、この病院の医療内容は急速に高度化し、充実してきています。沢山のレスピレーターと生命監視装置に囲まれて、ドクターもナースも手ばかりなく医療を行っています。そして、主治医に当たっている人は、かつての私がそうであったように、時を顧みずに治療に当たり、知恵のありったけを使って、患者さんと一緒になって病魔と闘っています。

そのようなドクターやナースがどんなに気が優しくて力持ちでも、心が折れかかることがあります。一生懸命努力しているにも拘わらず、無責任な言われなき誹謗中傷です。治療を尽くした末にご他界されたのを医療ミスだと噂を立てたり、医療の必要のない方への対応を金儲け主義だと言われるのは、心外この上もありません。

病院は公共の財産です。鈴鹿病院が携わっている医療は専門性が高く、一般の病院ではなかなか十分なことができず、国立病院機構が責任を持って行っています。社会のセイフティネットとして働いているのです。重い難病で救いを求めている在宅患者は少なくなく、何とかしなければいけません。一方で、国の病院だから当たり前と、言いたい放題やりたい放題の態度の人も、残念ながら、いないとは言えません。ナースに自動車いすを衝突させた人やあからさまなセクハラ・ストーカー行為、院内で喫煙や飲酒する人もいます。

闘病には患者さんと医療者との間の信頼関係が基本です。これが壊れては、安心して安全な医療を病院としても患者さんに提供することができません。当院で療養を続けておられる方々の治療に当たるドクターやナースは、高い志を持って、難病に立ち向かっています。私や病院としては、患者さんへの良質の医療サービスとともに、それに携わる職員の前向きな心を守り、後ろ向きの姿勢にならないように配慮しなければなりません。

幸い、大部分の患者さんやご家族のみなさんは、病院職員の医療への真摯な態度をご理解いただいていると思います。これからも、病気と一緒に闘っていく上で、よろしく御願いたします。

新任医師のご紹介



おぐら みちのり
小椋 美知則

職名：臨床検査科長

7月1日付けで、内科に臨床検査科長として着任しました小椋です。専門は血液内科、特にリンパ腫、白血病、骨髄腫などの造血器腫瘍の診断、治療で、名古屋大学血液内科、愛知県がんセンター血液・細胞療法部、名古屋第二赤十字病院血液・腫瘍内科を経て、この度、赴任しました。内科認定医・指導医、血液専門医・指導医、がん薬物療法指導医、輸血認定医などの専門知識を生かして、当院の患者さんの診療ならびに臨床検査科のさらなる向上に少しでもお役に立てるよう、微力ではありますが全力を尽くす所存ですので、皆様のご指導ご鞭撻の程をよろしく願いたします。



新人一同
がんばりますので
皆様のご指導よろしく
お願いします

平成26年4月に採用された新人コメディカル職員を紹介します



わかさぎ えいさく
若杉 栄作

薬剤科 薬剤師

大学では病院での実務実習も経験し、それなりに勉強もしてきたつもりでしたが、実際に現場で仕事をすると、これまで自分が覚えていた知識との違いや知らなかったことに戸惑い続きでした。

まだまだ多くのことが学べる機会を得たと思って、これからも勉強を続けて早く一人前になれるように努力をしていくつもりです。学校を卒業してようやく社会に出た新人ですが、なるべく早く患者さんや他のスタッフさんにとって頼りになる存在になれる様に頑張っていこうと思います。



おつか さや
尾関 沙耶

臨床検査科 臨床検査技師

出身は愛知県の名古屋市ですが、大学時代は長野県の松本市という、自然があふれた場所で過ごしました。三重県の鈴鹿市は初めてですが、こちらものどかで自然にあふれており、なんだか学生時代を思い出しても懐かしく感じました。

1日でも早く一人前の臨床検査技師になり、患者さんに頼りにしていただけるような様々なことを吸収し、日々、成長していけるように頑張りたいと思いますので、よろしく願い致します。



いとう しゅうせう
伊藤 秀造

リハビリテーション科 理学療法士

4月初めの入職当初、鈴鹿病院に到着してまず目に入ったのは大きな満開の桜の木でした。とても美しく力強い姿が印象に残っています。

多くの患者さんから、毎年あの桜が楽しみで見ると元気が出てくるとお聞きしました。私もあの大きな桜の木のように、患者さんを少しでも元気にできるようになりたいです。そして散ってしまう事の無いように日々、成長し続けて精一杯努力していきたいと思っております。





CT室

64列MDCT (マルチディテクタ)

任意断面再構成処理より、あらゆる方向からの画像を作ることができるので、写りにくい位置にある病巣の画像診断も可能になります。また検査時には姿勢の制限が少なく、患者さんの苦痛を来すことがほとんどありません。



透視室

エックス線テレビ装置 (透視撮影)

誤嚥性肺炎の原因となる接触嚥下機能 (のみこみ) の評価に利用されることが多く動画のエックス線撮影を行います。医師、リハビリ、看護師、栄養管理室など多くの部門が連携し検査に取り組んでいます。



MRI室

1.5テスラ MRI装置

装置のトンネル径も大きく、奥行きも短くなり従来の装置に比べて圧迫感が軽減されました。撮影時間は平均30分と少し長めですが、検査時の姿勢や体動を十分に考慮し、撮影方法や補助ツールを工夫して患者さんの負担を少なくするよう努めています。



われわれ診療放射線技師は
「患者さんが安心して検査ができる環境であること」
「適切な診断ができる画像を提供すること」
 をいつも心掛けています。

医学トピックス

AEDについて



ブラジルでサッカー・ワールドカップが開かれた今年の夏、鈴鹿病院の玄関ロビーにAED(自動体外式除細動器)が設置されました(写真)。AEDは心室細動(突然死の原因第一位)の治療機器で、近年、講習をうけた一般市民・学生が使えるようになりましたが、その普及の過程には二人のサッカー選手、カメルーン代表のマルク=ヴィヴィアン・フォエ選手(享年28歳)と日本代表の松田直樹選手(享年34歳)の心事故がありました。

2003年、フランス・リヨンでのコンフェデレーション杯準決勝、フォエ選手がピッチに崩れおちる瞬間を、私はテレビで見っていました。心臓マッサージと人工呼吸が行われましたが、当時のスタジアムに除細動器がなく電気ショックができなかったため、フォエ選手は、間もなく息をひきとりました。そして2011年、悲劇は日本でくり返されました。練習中、松本山雅(当時JFL)の松田選手は、急性心筋梗塞による心室細動で倒れました。現場で除細動の行われなかった松田選手は、数日後、搬送先の病院で亡くなりました。



AED (自動体外式除細動器)



正面玄関ロビーに設置しています。

突然に人が倒れ、意識を失う心肺停止に居あわせたら、119番通報、心臓マッサージと並行して、AEDを現場に運びます(図の左)。基本操作は3つのステップです。まず、電源を入れます。その後は音声ガイドの指示にしたがって操作します。

次に、傷病者の前胸部に電極パッドを2枚、心臓をさむように貼ります。心電図は自動的に解析され、除細動を必要とするかどうか判定されます。

そして、電気ショックです(図の右)。通電性確保のため、傷病者の胸部の汗や水分をふき取ります。操作者は感電を避けるため傷病者から離れつつ、ショックボタンを押します。一回目の除細動後、正常な心拍が戻らないかぎり、胸骨圧迫を続けるよう指示があります。2分経過したところで、必要なら、二回目の除細動が行われます。

年間に数万人に発生するとされる心臓突然死、救命のカギは現場に居あわせた人が適切な救急・救命処置を行うことです。心肺停止直後には肺や血液中には酸素が残っているので、心臓マッサージにより重要臓器に酸素を供給し、AEDにより正常心拍を再開させるのです。「フォエ選手と松田選手の死をムダにしてはいけません」

(内科・循環器科、副院長 安間 文彦)

(注) 図は「マンガでわかる救急・救命処置—パワーアップ版、メディカ出版、大阪、2012、33頁(安間文彦著)」より。

強かったチームが弱くなるのは大して時間はかからない。しかし、その逆の場合すなわち万年最下位のお荷物チームや新興球団が優勝するまでには、かなりの時間を要する。

1979年に開幕12連敗でスタートした西武ライオンズが黄金時代を築くようになるまでには苦難の道のりがあった。結成1年目は惨憺たる成績に終わり、2年目の80年前期(当時のパ・リーグは2シーズン制)もやはり最下位と低迷した。しかし、後期になって俄かに強くなり勝ちはじめた。新たに強力助っ人スティーブ・オンチベロスが加入して打線に厚みが出たのに加え、投げる方では隔年エースの東尾がようやく本領を発揮、2年目の松沼弟が独り立ちし先発に2本の柱ができた。2年目のジंकウスに悩んでいた松沼兄やんもベテランキャッチャー野村の好リードで復調するなどチームの歯車がかみ合っ勢いが加速した。一時は首位に立つなど、ひよっとすると優勝できるかもという

雲囲気も漂い始めていた。そしてむかえたシーズン後半に突然の失速、忘れもしない9月の終わり、悪夢の6連敗。優勝の夢は儚くついでた。当時は、やれ優勝のプレッシャーに負けた、そもそもまだ力不足であった、野村の弱肩を徹底的に攻められた、根本(監督)の采配がいまいちだ、など様々な原因分析がなされた。ファンとしてはようやくおとすれたチャンスに一瞬胸をときめかせたけれど、ああやっぱりという諦めで終わってしまった。

この連敗を阻止したのはは言わずと知れたエース東尾修、何と中日の志願の先発登板であった。前身の西鉄-太平洋クラブ・ウクライターからの生え抜きで、大田卓司とともに弱小チームを牽引し、誰よりも優勝に飢えていた男の意地がファンの心にヒシヒシを伝えるような鬼気迫るピッチングであった。翌81年も4位におわり根本監督が退任、その後任としていよいよ岡田達郎がチームの指揮を執ることになる。

平成オタクコラム
 プロ野球編14
 臨床研究部長 久留 聡



夏季神経筋セミナーを開催しました

本セミナーを通じて進行性筋ジストロフィーをはじめとする多くの神経筋疾患の診療を行っている当院で、急性期の病院では診療する機会の少ない神経筋疾患についての知識を深めました。



レクチャーを行う小長谷院長



神経筋疾患の知識を深めました

8月29日に筋疾患に興味のある若手神経内科医を対象とした神経筋セミナーを当院で開催しました。当日は、愛知県の病院より5名の若手医師が参加し、小長谷院長をはじめとする当院神経内科医より神経筋疾患の呼吸管理や分子遺伝学、筋病理などについてレクチャーを行いました。

一日看護体験を行いました



7月31日に地元の高校生を対象に、一日看護体験を行いました。当院では本体験を通じて、看護に対する認識や理解を深め、看護の道を志すきっかけづくりになることを目的として毎年開催しており、今年度は10名の高校生が参加しました。



正面玄関で記念撮影

Basic Life Support

BLS研修を行いました



病棟看護師長よりBLSの重要性を伝えました

7月23日および7月29日にコメディカルスタッフや事務職員を対象とした一次救命処置 (BLS) 研修を行いました。事故等の発生現場では救命処置を早期に行うことによって救命率を飛躍的にあげることが可能となります。病棟看護師長や臨床工学技士が講師となりスタッフにアドバイスをしたり、AEDの使用方法を細かく指導することで一次救命処置を適確に遂行するための能力を身につけました。



臨床工学技士よりAED使用方法を説明



細かく指導を行いました



能力を身につけるため真剣に取り組みました

医師より皆さんへ

Message from doctor for you

神経内科医長の木村正剛と申します。最近、俳優の唐沢寿明さんが演じるスーツアクターが主人公の映画が話題になっています。スーツアクターとは衣装や着ぐるみを着て正義の味方や悪役のアクションを演じるひとです。

実は、医師が着る白衣にも制服効果とでもいうのでしょうか着ぐるみや、衣装のように別人格になりきる効果があると思います。少なくとも私は、生来の人見知り、口下手、臆病で引っ込み思案です。プライベートでは今でもそうですが白衣の時は、人が変わったように医師として振る舞っています。冷静さ、人に説明する能力、毅然とした態度など必要とされる資質をこの時だけ発揮できるのです。それは、長年の訓練で弱い自分を乗り越え職業人として職務を全うできるようにしているのですが、白衣の下の本当の自分は傷つきやすく、繊細で脆いのです。当院に奉職して10年を超え、長年吸収した知識と経験から年々、医師としての判断力や先を見通す力はアップしていると感じるのですが、逆に弱くなった部分があるのです。それは、事態を見通す力が付けば付くほど、プレッシャーや責任の重圧が増してくるのです。また私も人の子なので長い間付き合っている入院患者さんたちへの情と



神経内科医長
木村 正剛



いうものの存在が否定できません。白衣のもとで情を押し殺して冷静沈着に行動していますが治療のためとはいえ水分や、食事、外泊や入浴を制限するのは心の中では泣いているのです。患者のみなさん、家族のみなさん、医師も、看護師もみんな人の子、皆さんと深くかかわるほど様々な葛藤や重圧が生まれそれと戦いながら日々、職務を全うしています。みなさん、これからもどうか我々を信じて一緒に病気と闘ってください。どうかよろしくお願いします。

職員の輪 (職員紹介)



リハビリテーション科
作業療法士
成瀬 智将 さん



●鈴鹿サーキット国際レーシングコースに参加しました ●5時間耐久レース ●ドライバーズチェンジ

作業療法士になって4年目です。外来・入院患者さんの作業療法を担当しています。私の仕事は、動作に制限のある患者さんが元気に日常生活を送れるよう、様々な活動を通じて身体面だけでなく精神面にもアプローチする仕事です。患者さんの喜び姿が何よりの励みになっています。趣味は全国から集まる仲間達とレーシングカートでレースに参加したり、鈴鹿サーキットにて年に数回、愛車でスポーツ走行などを楽しんでいます。同時に様々な職種の方と触れ合うことで自身の見聞を広げるよい機会となっています。

地域医療連携室だより

長年に渡り当院で療養生活を送っている岩澤義巳さん。本号の表紙に登場しています。



リハビリを受ける岩澤さん

入院当初から何かに打ち込みたいと考え、以前から興味があった油絵に挑戦することに決めました。入院後21年間ずっと油絵を描き続け、今では25点の作品が出来上がりました。

岩澤さんは徐々に筋力が低下する病気を抱え、自分でできることが限られながらもおよそ1年間かけてじっくりと1つの作品を作り上げています。現在はボランティアの方々の力を借りて週に1回1時間描き続けています。



最新作となる作品「旅に出よう」と岩澤さんのツーショット





看護課だより



副看護師長(専任感染管理) 高橋 朝美

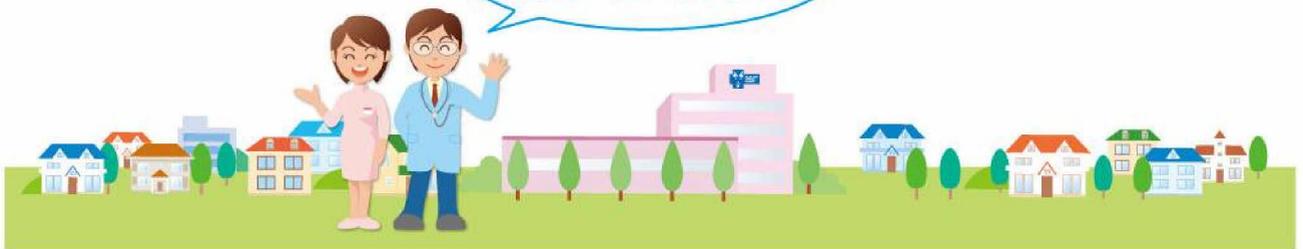
今年度4月より、感染担当看護師として活動することになりました高橋朝美です。感染担当の看護師は何をする人なのかをお伝えしようと思います。

皆様もマスク等ではたびたび話題となる院内感染による事故について耳にされたことがあるかと思います。また、冬季になると毎年インフルエンザやノロウイルスが話題となり、最近ではエボラ出血熱も連日のように報道されています。エボラ出血熱に関しては、海外で起こっている話なのであまり身近には感じられませんが、「感染症」自体は、誰にでも起こり得るものです。風邪をひいたり、子供のころ水ぼうそうになったりしたことを記憶されている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？これらはすべて「感染症にかかった」ということになります。

例えば、先に述べましたインフルエンザやノロウイルスなどのウィルス感染症は、流行性のものなので医療従事者・御家族が絶対にかからないわけではありません。病原体は、人から人へ直接、または物などを介して感染していきます。そのため、それらを患者様にうつすことがないように、また、感染した患者様から医療従事者やご家族の方を介して、ほかの患者様が感染することがないように対策の教育を行い、徹底していくということをしています。病院では、免疫力の低下した患者様は、通常であれば何の問題もないような感染力の弱い病原体によっても感染症を引き起こす可能性があります。このような事態を招かないために、私は常日頃から感染予防を行うために職員全員で対策を行えるよう教育を行い、質の高い安全で安心な医療を提供できるようにすること、感染症の兆候を監視していくことを行っています。

感染症は誰にでも起こり得るものです。安全で安心な医療を提供するには、感染対策は非常に重要です。私は今後も、患者様・ご家族の皆様・職員を感染から守るために、努力してまいります。

裏面で正しい
手洗いの方法を紹介します。
実際にやってみましょう!



7月9日に行った感染症院内研修会の様子



洗浄度検査について説明



研修参加代表者にATPふきとり検査



参加者全員で手洗い練習



正しい手洗い方法をレクチャー

ただ て あら ほう ほう 正しい手洗いの方法



1

まず手指を水でぬらします



2

石鹸の泡を手の平に
取り出します



3

手の平を擦り合わせて
よく泡立ってます



4

手の甲をもう片方の手の平で
もみ洗います (両手)



5

指を組んで両手の指の間を
もみ洗います



6

親指をもう片方の手で包み
もみ洗います (両手)



7

指先をもう片方の手の平で
しっかり洗います (両手)



8

両手首まで丁寧に洗います



9

流水でよくすすぎます



10

タオルでよく水気を
ふき取ります



しるし
○印は、
洗い残しやすい
箇所です

◆ 外来診察担当表 (2014年10月1日現在)

	月	火	水	木	金
神 経 内 科	小 長 谷	酒 井	久 留	小 長 谷	久 留
		木 村	前 嶋		
内 科	野 口	安 間 (循環器内科)	小 椋 (血液内科)	安 間 (循環器内科)	棚 橋 (循環器内科)
小 児 科		予 約			予 約
整 形 外 科		田 中 (装具外来)			田 中
リハビリテーション科					田 中
皮 膚 科		予 約			
歯 科	永 田	永 田		松 谷	
禁 煙 外 来	野 口			安 間	

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越し下さい)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約下さい。
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

◆ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩8分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 三交バス(荒神山口行き/椿大神社行き)
「加佐登神社前」下車すぐ
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



◆ 編集後記

ようやく秋らしく過ごしやすい季節になりました。冬にかけての季節の変わり目は、気温の変化などから体調を崩しやすくなります。バランスのとれた食事と運動、そして手洗い・うがいをしっかりとって感染症を予防しましょう。

医療社会事業専門員 山方 郁広